

会 議 録

会 議 名	第2回森岡地区拠点施設基本構想・基本計画検討委員会	
開 催 日 時	令和7年7月7日(月) 午前10時から午前11時50分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	小松尚氏(委員長)、鈴木賢一氏(副委員長)、榊原政策課長、中村財政経営課長、内田人事課長、船津ふくし課長、関学び支援課長、畔上環境課長、筒香住民自治課長、前床都市デザイン課長、川瀬建築施設課長、青木教育課長、新家子育て支援課長
	事務局	財政経営課 中村課長(兼務)、久野係長、竹内主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 これまでの検討結果 (1) 第2回整備計画検討会 (2) 第1・2回作業部会 3 森岡地区拠点施設基本構想(案)について 4 今後の流れ	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—	
傍聴者の数	—	
審 議 内 容 (概 要)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政経営課長から挨拶 ・委員の出席及び会議の成立を確認 ・傍聴者の確認 <p>議題の審議内容は、下記のとおり</p>	
備 考	—	

1 あいさつ（公開）

財政経営課長より挨拶。

2 これまでの検討結果

(1) 第2回整備計画検討会について

(2) 今年度業務について

事務局よりこれまでの検討結果について説明し、意見交換を行った。

◇委員

作業部会において、アクティビティについて細かく提示され検討が行われたと思うが、基本構想ではどう掲載される予定か。

◆事務局

アクティビティは基本構想内の導入機能として整理しており、作業部会での検討結果は基本計画にて記載予定である。

◇委員長

第2回作業部会の出席者に個別化・個性化アドバイザーの方がいるが、どういった方か。

◇委員

町として個別化・個性化教育を推進しており、個別化・個性化アドバイザーを配置している。長年、個別化・個性化教育を行っている緒川小学校は、全国からの視察を受け入れているが、鬼頭氏は、一昨年まで緒川小学校で校長先生を担っており、退官された後にアドバイザーに入っていた。

◇委員長

今後、どういった教育を行うか、中身の話も議論していく必要がある。

3 森岡地区拠点施設基本構想（案）について（公開）

事務局より森岡地区拠点施設基本構想（案）について説明し、意見交換を行った。

◇委員

P. 57 複合拠点について、森岡児童館の現在の所管課は教育課になるため修正いただきたい。また、P. 60 の導入機能について、「放課後児童の教育機能」と「児童の保育機能」はどういった想定で記載されているのか。

◆事務局

P. 57 は修正する。「放課後児童の教育」はアフタースクールを想定した放課後における児童の学びの場、「児童の保育機能」は児童クラブを想定した児童預かりを想定している。

◇委員

今後、働く保護者の支援として、児童クラブの拡充と合わせて、アフタースクールの今後のあり

方を考えている。そういった方向性も表現ができると良いと考える。

◇委員

保育園は民営化を検討している。保育園の建物は、別棟になる考えなのか。

◆事務局

配置は基本計画で検討していく予定である。民設民営であれば、別棟にする可能性はあると考えている。

◇委員

複合施設とした場合でも、金額さえ明示できれば、保育園にかかる国の補助を受けられる可能性があると考えている。6/4の全員協議会にて森岡西保育園は先行して民営化することを検討していくことを提示しており、今後、保護者等に周知する予定である。基本構想・基本計画と合わせて検討すると報告しているが、今回の基本構想では何らかの記載はできないか。

◆事務局

P. 57にて「森岡保育園と森岡西保育園を統合の上」と掲載しているため、内容は再検討させていただく。民営化の可能性のあることを基本構想で示しつつ、具体的な点は基本計画で提示したい。

◇委員

第1回検討委員会にて、環境基本計画の見直しに際してZEB化の検討をお願いしたいと進言して、盛り込んでいただいている。状況として、昨年度末に環境基本計画の見直しが終わり、各種方針を示している。今後、再生可能エネルギーの積極的な導入が必要最低条件と考えているので、検討いただきたい。

◆事務局

P. 52にカーボンニュートラル等について記載しているが、あくまで検討事項として記載している。現状は、町として何を義務付けるかが提示されていない。具体的にどこまでの環境配慮を行うのか組織としての全体方針が必要と考えるが、環境課にて見直しの予定はあるか。

◇委員

環境基本計画は町民等を含めたオール東浦を対象とした計画である。町の事業所としての見直しは、現在検討している。2050年までにカーボンニュートラルを達成することを宣言している以上、ZEB化を検討することは必須であるという方針を出したいと考えている。

◇委員長

環境基本計画で示されている文言を使いながら掲載することはできないか。現状の記載では、社会的にこういったことが求められているという程度に見える。東浦としてもう一步踏み込んだ計画を行っていることを示すことができると良い。例えば、上位・関連計画の関係図内に環境基本計画を含めることも考えられる。少なくとも新しく整備する公共施設は環境基本計画に沿った内容とすべきという意見であると思われるため、現在の表現は弱く感じられることから、基本構想にしっかりと方向性を示しておくべきである。

◆事務局

環境基本計画に基づいて計画していくことを記載していきたい。

◇委員長

その他、子育てに関する計画も色々あると思う。第2章も基本的にはハードの話をしていると思うが、アクティビティのように、使い方のソフト面も考えていく必要があり、福祉や環境も同様のことが言える。

◇委員

P. 55 にアクティビティを整理いただいております、各所管でこういった取組みがされているかが整理されている。現在、各所管課において予算を管理している状態であるが、アクティビティを見ると予算の区切りがつかなくなるようなものもあるため、今後、押し付け合いが発生することも想定される。どこかの時点で、拠点施設を集約した新たな所管課のようなものを作る必要があるのではないかと。先進自治体では、民間と連携して1つの部署が予算を作っているとも聞いている。人事課との相談事項とも思うが、現時点の考えについて聞きたい。

◆事務局

P. 40 にて「施設を一元管理できる体制を検討」と記載しており、このとおり検討していきたいと考えている。

◇委員

供用開始が早く令和13年となっているが、可能な限り早く取組む必要があると思うため、人事課とも協議いただきたい。

◇委員長

この問題に関しては、庁内でのカウンターパートをどう作るのか、現場でのカウンターパートをどう作るのかの2つがあると考えます。庁内パートは設計工事から関与するものであり、どんな手法で整備を行うかによって現場の管理体制も変わってくる。また、現場のパートは主に竣工後に関与することとなるが、事業によっては設計時点からも関与することになる。現在は基本構想のタイミングであるが、検討が早ければ早いほど議論は早く進む。マネジメントがしっかりできる体制になるかという点は、基本構想と同じくらい重要なポイントであり、今後検討すると記載されているが、いつまでに結論を出すかを決めながら検討する必要がある。

◇委員

基本構想の中では施設規模については触れないのか。

◆事務局

施設規模を含む施設計画については、基本計画にて掲載する予定である。

◇委員

既に作業的な検討はしていると思うが、これだけの建物を整備するのに、どのくらいの規模のものができるかはアタリをつけておくべきだと考える。真っ先に課題となるのは駐車場で、莫大な面積が必要となる。他にもグラウンド等の土地をたくさん使うものがあるため、今後の検討が難

航することも考えられる。

◆事務局

作業部会にて、今後の検討事項として諸室等の意見は聞いている状況である。現在いただいている意見を踏まえると、複合しても面積はなかなか減らず、費用も再配置計画時の想定よりも上がってくる。基本構想においてどこまで記載するかを事務局で検討した上で、規模については基本計画に記載していきたいと考える。

◇委員

30%削減の目標がある中で、それを本当に実現できるのか考えていく必要がある。これまでの施設がそれぞれで各取組みを担当するのではなく、施設同士が重なって対応する必要があると考える。取組みがどう重なっていくのか、どう対応していくのか、マトリックスのようなもので記載できると良い。

◆事務局

諸室等のハード面と、管理運営のソフト面において、各取組みをどう連携して実施していくのか、基本計画において示していきたい。

◇委員

支援が必要な子供が増えている中で、複合拠点として何か新しい取組みができないものかと考えている。また、他現場においても、学校計画の中で地域のお年寄りを助けることが必要という話が出てくる。地域の人々を小学校でサポートできる形が出てくると、学校がより良いものになっていく。

◇委員長

集約対象施設の規模をそのまま計算すると 11,000 m²ほどとなる。保育園を除くと 9,000 m²ほどで、30%削減を達成しようとする、現在の森岡小学校程度の面積に全てを収める必要がある。規模について、他事例では10年前に統廃合したばかりで既に新たな統廃合検討をしている学校もあり、数合わせだけでは無理が生じている状況である。コミュニティスクールは地域とのコミュニティの中で、子どもも大人も学ぶという縦の繋がりが重要となる。コンセプト図に「つくる・つながる・ささえあう」とあるが、これをどこまで広げられるかが重要である。視察に行かれる鎌田中学校では、公民館利用者に話を聞くと、ここに来るのが楽しみという声が聞かれる。「これまでの公民館はどんよりした雰囲気だったが、新しい公民館では子供が挨拶をしてくれるので、張り合いがあるように感じる。」「ここに来るには格好をちゃんとしなきゃいけないと意識づけられる。」といった話が聞かれた。こうした新しい活動、張り合い、生きがい生まれるような複合施設ができると良いと思っており、コンセプトのキーワードも深読みできると良い。

◇委員

計画では2031年に供用開始とあり、その後に2033年まで記載されているが、何か意味はあるか。また、スケジュールを前倒しする想定はあるのか。

◆事務局

現状は最短の場合を記載しており、導入可能性調査等の検討結果では、伸びる可能性もある。明

記はしていないが、伸びる可能性も踏まえ 2033 年までの表としている。

◇委員

管理運営体制は PPP 等も含めて検討するということか。

◆事務局

そういった認識で問題ない。これから検討していきたい。

◇委員

敷地図が掲載されているが、一般の方には理解しづらいのではないかと感じる。緑色エリアの凡例等がない。区画整理による取得予定地も破線等で示すことはできないか。

◆事務局

都市デザイン課として、現在はどこまで掲載して良いのか。

◇委員

現在は区画整理の事業認可を受けていないため記載しづらい部分であると思うが、こういった掲載とするか調整したい。緑色で示されているその他公共用地は不要であると感じる。

また、概要版の課題・必要性、基本方針、整備方針が似たようなことが記載されているため、もう少し要点を絞って表現することも検討してはどうか。

また、P.55 の既存機能において、学校でも地域のイベントを行っているため、記載を検討すべきと考える。

◇委員

施設管理者ヒアリングの結果概要について、コミュニティセンターの所管が生涯学習課から住民自治課に移管されている。やや複雑な整理となるため、P.32 のように担当課を抜いて表示してはどうか。

なお、森岡地区では盆踊りを小学校で実施している。

◇委員

住民意見等で、例えば森岡西保育園を残すと意見が出たときは、残す可能性はあるのか。

◆事務局

例えば、人口ピーク時を踏まえて一時的に森岡西保育園を残すといったやり方とする可能性はあると考えられる。

◇委員

保育園以外の施設でも、住民の意向としての意見があった場合はどうなるか。

◆事務局

再配置計画にて示されている内容であり、基本的に対象施設は全て複合化することで考えている。今後の面積検討の中で、園児数のピーク等において、既存施設を一時利用することも考えていく必要がある。

◇委員

消防団詰所が対象地内にある場合、常に幹線道路にも面していない区画整理地内から出動する必要があるのは、区画整理の担当部署として疑問がある。

◆事務局

まずは全ての対象施設の複合化を目指して配置計画を検討していく必要がある。検討の中で支障が生じるとなった場合には、改めて検討する必要もあると考える。

◇委員長

この場で決定することではないが、声があれば対象施設を外す可能性もあるのかどうかは整理しておく必要があると思う。

◇委員

職員が当事者意識を持つといった記載がある。現在は意識を持って取組んでいると思うが、うまく引き継いでいかないと、整備後に年数が経った際に機能しなくなってしまうではないか。

◆事務局

具体的な運用はこれから検討していくが、人が集まれば自然と動きが発生すると思う。まずは皆さんが集まれる場所を整備することを検討していきたい。複合施設の所管の役割は、地域住民に働きかけるということもあるが、全体を管理運営できることが必要と考える。

◇委員

地域住民に行政から声掛けしてもやってもらえないと思うので、当事者が動きやすいように、背面でけしかけるような仕組みが必要であると思う。人が集まれば動くというのではなく、きっかけ作りが必要であると考えます。

◇委員長

過去の事例では、新しい校舎になってやりたいことを、既存の校舎でやってみることを行った。できないことはやめる、という整理である。かわらばんに記載されているような取組みをやってみてはどうか。喜んでやる人もいれば、意見だけのつもりだった人もいると思う。鎌田中学校でもカフェをやりたいという意見があったので、実際に文化祭に出店している。竣工後、実際にカフェを導入することは叶わなかったが、一度やってみるとどれくらい大変なことかがわかる。やる気のある人を集めるようなプロセスも重要と考える。

◇委員

老人憩いの家は、全庁的に交流場所としていく動きがあるが、なかなかうまくいっていない状況である。今後森岡地区が指針となると思うが、うまくやっていけるのか楽しみかつ不安である。また、老人クラブの加入率が10%くらいであり、残りの方をどう呼び込むか。可能であれば他施設の手伝いもしてもらって、ウィンウィンの関係になれば良い。良いモデルケースとして町内全体に広がっていくと良いと思うので、事例も教えてもらいながら、一緒に作っていききたい。

◇委員

老人会に入りたくない高齢者はたくさんいる。動きたいと考えている人はいるため、老人会という枠をなくしてはどうか。また、行政としてみなさんに手伝ってほしいというメッセージを出してはどうか。皆さんが手伝ってくれないと動けないというヘルプは出すべきと考える。

また、PFI で実施する場合のスケジュールについて、要求水準書等の資料を用意する必要があるが、この期間が想定から抜けているように感じる。事業者選定後は外部からの意見を反映しづらいため、町民意見を踏まえてしっかり公募条件を詰めていく必要がある。

◆事務局

今後、詳細なスケジュールを検討していきたい。

◇委員長

複合化を行うが、学校が真ん中にあるのは間違いない。完成するのは最短 2031 年とあるが、今の学校の方針にある個別最適化は 2030 年までの取組みであるので、さらにその次のことを考えていく必要があると思う。

◇委員

審議会で議論しているものも刻々と変わっている。個別化・個性化教育は長く言われている事項であり、言葉は変わるかもしれないが、今後も同じコンセプトが続くのではないかと思っている。この町は既に実績が積みまれていると思うが、文科省も自由に考えなさいという方向性になってきているため、かなりフリーハンドで話ができる状況なのではと考えている。個別化・個性化アドバイザーの方も踏まえて、どうやっていくのかを考えてほしい。これからは非常に個性的な学校ができてくると思うので、本事業は尖っても良いと思う。

◇委員長

学びというのがどういったものか、考えていく必要がある。社会的環境で学ぶというのも大切である。児童に関わる人も、これまでは学校の先生のみであったが、これからは地域の人が教壇に立つ等が考えられるため、そういったことの先端性を追求していけたら良いと思う。専門の方を含めて議論し、施設整備に反映していくことが大切である。

◇委員

最近では教師と子供ではなく、教育者と子供という言い方している。教育者といのうは、地域住民や我々等、誰もがなれるという考え方である。今後は教師と教育者がコラボして教えていくことになると思う。

4 今後の流れ（公開）

事務局から今後の流れについて説明。